

1 調査年月日

令和 7 年 11 月4日 (火) ~6日 (木)

2 調査項目及び調査地

【調査項目】

- (1) 愛知県 豊田市 メタバースを活用した居場所作りについて
- (2) 株式会社浅井農園 (三重県津市内) IT農業について
- (3) 兵庫県 西宮市 放課後キッズルーム事業について

【調査地】

- (1) 愛知県 豊田市
- (2) 株式会社浅井農園 (三重県津市内)
- (3) 兵庫県 西宮市

3 議員名

岩田 優太

4 調査報告書

別紙のとおり

5 その他

11 月視察(政和会に同行)

① 1ヶ所目

● 愛知県豊田市(とよたし) メタバースを活用した居場所作りについて

豊田市の概要

愛知県豊田市は、愛知県中部に位置する人口約 42 万人の中核市です。

トヨタ自動車の本社が立地する世界有数の自動車産業都市で、製造業を中心に強い産業基盤を持ち、市域には県内最大級の広さで都市部と山間部が共存し、矢作川流域の自然や香嵐渓などの観光資源も豊富であり産業力と自然環境のバランスが取れた、愛知県を代表する都市です。

豊田市は「メタバース」を地域活性化・行政 DX・教育支援などに活用する先進的な取り組みを進めており、その中でも代表的な取り組みとして「メタバースとよた」という仮想空間プラットフォームの構築・運用がある。

● 豊田市におけるメタバース活用の全体像

豊田市メタバース将来ビジョンの策定

豊田市は「豊田市メタバース将来ビジョン」を策定し、メタバースを地域課題解決に資する社会インフラとして位置付けている。このビジョンでは、2030 年に向けたメタバース活用の方向性や方針が示され、自治体・市民・企業が連携しやすい基盤整備が進められている。

● 主な機能・エリア構成

「メタバースとよた」内は、目的別に複数のエリアが用意されている。

1. はじまりの広場 - 豊田市の象徴的なスポット再現や情報発信
2. And カフェ - 小規模な相談・交流スペース
3. まなびの森 - 教育支援や学びの場(例:不登校支援など)
4. つながるアリーナ - 大規模イベント・セミナー開催場所

● 主な活用例

- ・「二十歳のつどい」:メタバース内で成人式イベントの実証実験を実施し、今後の開催形態検討に役立てる。
- ・SDGs 講座:SDGs の学びを深める連続講座を開催し、企業との連携による市民教育にも活用されている。
- ・活用セミナー:企業・団体向けに「メタバースとよた」の使い方や活用事例を学ぶセミナーも開催されている。

民間連携の拡大にも寄与し企業や NPO 等の主体がメタバース内でイベントや交流を自由に行える点は地域産業・交流の活性化につながる可能性がある。

教育支援において相談サービスなどは、対面では実現しにくいケースでもメタバースなら参加しやすいというメリットがある。このように市独自の仮想空間を持つことで、地域の声やニーズをデータとして収集し、今後のまちづくりに活かす仕組みづくりが進むと考えられている。

#### 豊田市のメタバース活用の意義

豊田市はメタバースを単なる技術トレンドとしてではなく、地域の課題解決・コミュニティ形成・教育支援・行政サービスの DX といった多面的な価値創出のためのプラットフォームとして活用しようとしている。

実際に「二十歳のつどい」「SDGs 講座」「活用セミナー」など具体的な活用例も進んでおり、今後さらに自治体・企業・市民が連携する場としての展開が期待されている。

江別においてもメタバースについては前向きな検討がなされているという認識ではありますが、今後社会インフラとしてのメタバースの活用は、年齢や距離、時間などにも縛られずに使用できるプラットフォームであることから、これからの居場所支援の一環やイベントなどのコミュニティ作りのためにも必要なツールになるものとする。

---

## ② 2ヶ所目

### ● 浅井農園(あさいのうえん) IT 農業について

#### 所在地・設立

三重県津市高野尾町に本社・生産拠点を持つ農業法人。1907 年創業、1975 年に法人化された歴史ある農園です。

#### ● 事業内容

先進的な農業経営を行う研究開発型の農業会社で、主にミニトマトやキウイフルーツの生産・販売、果樹・苗の生産、農業技術の研究開発やコンサルティング等を行っている。代表取締役は 5 代目の浅井雄一郎氏で、研究開発や高度生産技術を取り入れながら次世代農業のモデル構築に取り組んでいる。

#### ● 浅井農園の IT/スマート農業の特徴

##### (1) ICT・環境制御を取り入れた高度管理型農業

浅井農園では、ハウス内の環境(温度・湿度・CO<sub>2</sub>など)の制御システムや ICT 技術(情報通信技術)を活用して、トマトをはじめとした農作物の最適な生育環境をデータで管理し、生産性・品質の安定化を図っています。

これにより生産効率の向上や高付加価値作物の継続的な供給を実現している。

## (2) AI 技術・データ分析の応用

世界各国から導入した品種とともに、栽培データを蓄積・分析することで AI 的な管理手法を取り入れ、科学的な栽培管理を進めています(※一般的なスマート農業のひとつの側面)。特にミニトマトではこうしたハイテク技術を活用して差別化を図っている。

## (3) 研究開発型の経営と人材取り込み

浅井農園は「農業者」ではなく“アグロノミスト(農学的技術者)集団”を志向しており、経営に研究開発部門や専門性の高い技術者を組み込んでいます。こうした組織体制が IT 農業・スマート農業の導入を支えている。

## (4) 研究・連携

大学などと連携し教育・研究活動も行っているほか、DENSO と共同で大規模温室栽培のモデル開発を進めるなど、次世代農業の実用化にも力を入れている。

現場を科学する姿勢で、農業の効率化・持続可能性向上に取り組む企業であり海外技術の導入や国際的な人材交流も積極的に図っている。

### ●特徴的な取り組み事例

#### 「スマート農業 × トマト栽培」

- ・ ミニトマトの栽培において、ロボット・ICT・データ制御技術を活用
  - ・ ハウス内環境をセンサーで監視し、最適化することで安定した生産性を確保
  - ・ 高付加価値商品の安定供給を目指すモデルを構築
- グローバル GAP 認証の取得

### ●IT 農業(スマート農業)で重視される技術例

浅井農園のような IT 農業では、次のような技術・仕組みが導入されている。:

こうした技術を農業現場に導入することで、生産品質の安定化、労働負担の軽減、効率化、生産計画の高度化等が期待される。

### ●浅井農園の IT 農業活用の意義

#### 1. 生産効率の最適化

従来の経験・勘による栽培管理から、データに基づく管理へ転換することで安定性が向上する。

#### 2. 高付加価値商品の創出

品質の高いミニトマト等を供給することでブランド化・差別化を図りやすくなる。

#### 3. 経営の持続可能性

農業人口減少という社会課題に対して、効率と収益向上を両立させるモデルを構築している。

浅井農園は ICT・環境制御・データ分析などの IT 技術を活用したスマート農業の先進事例として、津市内だけでなく全国的にも注目されています。このような取り組みは、従来型農業の限界を越えた「次世代農業モデル」を示すものとも言える。先進農業・スマート農業高度な環境制御システムや ICT を活用したスマート農業に取り組んでおり、国内トップレベルの生産性を目指した高付加価値作物栽培を展開している。

江別市においては視察地との農作エリアの差はあるものの、北海道という土地の広大さや現状の日本の食料自給率が約60%であることを勘案すると、広い土地で厳しい自然環境であるからこそ IT 化や ICT によるスマート農業の普及が進むと環境要因の克服にも繋がり日本全体の食料自給率の更なる改善に寄与するであろうことから江別でも今後とも産官学において注力していく課題であると考えます。

---

### ③ 3ヶ所目

#### ● 西宮市(にしのみやし) 放課後キッズルーム事業について

##### 西宮市概要

兵庫県西宮市は、兵庫県南東部に位置する人口約 48 万人の中核市です。大阪市と神戸市の間にあり、JR・阪急・阪神が通る交通利便性の高い住宅都市として知られており、文教都市として評価が高く、関西学院大学をはじめ教育機関が集積。また、阪神甲子園球場が立地し、高校野球・プロ野球の聖地として全国的に有名です。

#### ●放課後キッズルーム事業とその目的

西宮市(兵庫県)が進めている放課後キッズルーム事業(愛称:「放課後キッズ」)は、小学校の放課後などに子どもたちが自主的にのびのびと過ごし、遊びや学びを楽しむための居場所づくりの事業である。

市と教育委員会が中心となって、地域の大人や専門スタッフとともに運営している。

この事業は、西宮市内の小学校施設を活用し、放課後の時間や長期休業期間中に子どもたちが自由に活動できる場を提供するものであり、宿題・読書・遊び・友だちとの交流など、子ども自身の判断で過ごせるのが特徴である。保育サービスとは違い、あらかじめ決められたプログラムに参加するのではなく、主体的な活動が重視されている。その上で子どもの育ちの課題、コミュニケーション力の低下、体力の二極化、体験活動不足、子どもを取り巻く環境の改善や自由な遊び場の減少、留守家庭の増加、放課後の犯罪被害の防止などの一翼を担う目的もある。

#### ●放課後キッズルーム事業の取組の概要について

##### 1つ目に福祉的取り組み

留守家庭児童育成センター(学童保育)→就労家庭支援・生活の場を提供 児童館→子育て支援・遊び場の提供

##### 2つ目に教育的取り組み

放課後子ども教室→地域との交流・体験の場を提供 放課後キッズルーム事業→遊び場・学びの場の提供

上記のように地域の方の参画により、放課後や週末に勉強やスポーツ、文化活動など多様な

体験活動や地域住民との交流機会を提供する。

●事業の主な形態

□ 直営型

- ・市の教育委員会がコーディネーターを配置して進める運営方式。
- ・地域の「見守りサポーター」と一緒に、安全に配慮しながら自由な活動を見守り。
- ・市はこの形式を基本として、実施校を拡大する方針。

□ 委託型

- ・民間事業者が運営を受託して実施。
- ・主に留守家庭児童育成センターの待機児童対策にもつながる学校で導入されている。
- ・スタッフは遊びや学習の見守り・支援を行います。事業の趣旨は「自分で過ごす場」の提供。

●開設内容の詳細

直営型と民間委託型の違い

直営型		委託型
申込み方法	・申し込み不要	→ ・参加申し込み制(保険料800円)
預かり時間	・学校の下校時刻まで	→ ・17時まで実施
長期休業期間	・午前中のみ	→ ・8時～17時まで実施(19:00まで延長可)
運営主体	・市の直営	→ ・事業者へ委託

※現在41校中33校にて実施うち直営型24校、委託型9校

参加対象(直営・委託共に共通)

西宮市内の各小学校に通う児童が利用できる。1年生～6年生まで(学校により対象範囲は異なる場合ある)

活動内容(直営・委託共に共通)

宿題、読書、自主学習 外遊び、室内遊び(折り紙・ゲーム等)友だちとの交流、集団遊び活動は子どもたちが自分で選び、自由に過ごすスタイル

地域や学生の協力(直営・委託又は各事業所で異なる)

地域の大人や 学生サポーター(有償)も活動に参加し、遊びの提案や子どもたちの見守り・応援を行う。

・学生にとっては、教育・子ども支援の経験を積む場にもなっている。

●放課後キッズルームの事業についての市の関わりについて

- ・行政主導で実施
- ・見守りサポーターの確保と学校や地域との連携を模索
- ・育成センターとの調整

・会計年度任用職員のコーディネーターを配置し、見守りサポーター、学生サポーターをコントロール

●活動場所

放課後キッズ ランチルーム・図書室等の屋内施設を学校と共同で使用(原則専用室はなし・運動場育成センター 育成センター専用室・運動場等)

●コーディネーターの業務内容(会計年度職員・教員免許必要)

- ・学校との調整 ・見守りサポーターの管理 ・学校支援業務(授業補助・学校行事の準備や片付け)
- ・安全な事業実施のための見守りや声かけ ・子どもたちの危険な行為や迷惑行為に対する注意
- ・事業の準備や片付けなど

●取組の成果については

屋外では学年の違う子どもどうしの遊びが生まれ、屋内では自ら進んで宿題に取り組む姿勢も見られた。

屋内では子どもたちの間ではボードゲームが大人気という声が上がっている。学校の協力について教職員は事業の運営に参加せず学校への連絡は控えるなど、毎月発行する「おたより」でお知らせする。

●取組の課題及び今後の展開について

総合的な放課後施策を目指して展開しており、さらに委託型の放課後キッズルームを設置し事業の拡大は図っている。待機児童対策と同時に、子どもたちに安全な遊び場の提供と様々な学年の子どもたちが縦割りで活動することで年上の子が年下の子の面倒を見たり、一緒に遊んだりという体験が貴重な体験となり、喧嘩などのトラブルにも大人がすぐに介入せず様子を見て子どもたちの学びとすることに重点をおいている。

子どもが経験を通して成長を促す施策となっている。放課後の時間を学びにも繋がり、子ども本位の居場所作りであり学童保育の待機児童対策の反面、内容的には自立を促すものであり江別市においても今後このような施策の検討が必要と考えます。